

新春
市長対談

コロナ禍を切り拓き 多久市の輝く未来をつくる



大阪大学大学院
医学系研究科 感染制御学
教授

くつ な さ と し
忽那 賢志

Profile

専門は新興・再興感染症、一般感染症、節足動物媒介感染症、輸入感染症。

令和2年1月以降は特に新型コロナウイルス感染症の臨床・研究に従事し、回復者の抗体推移や後遺症の解析、回復者血漿療法の臨床研究を国内で主導。さらには一般向けに感染症の知識を啓発するなど幅広く活躍されている。

※対談の内容は11月13日時点のものです

市長

新年おめでとうございます。忽那先生の新型コロナウイルス対策やワクチンについての分かりやすい解説に、多くの人が助けられていると思います。この対談をとおして多久市民のみなさんにもお伝えしたいと思いますので、今日はよろしく願います。

忽那

あけましておめでとうございます。今回の対談が多久市民のみなさんの感染対策やワクチン接種の参考になれば幸いです。こちらこそよろしく願います。

工夫を重ねた多久市のワクチン接種

忽那

私は新型コロナウイルスが日本で確認された当初から診療に関わっていますが、その頃はもちろんワクチンも治療薬もありませんでした。しかし現在はワクチン接種が進み、治療薬も登場しています。多久市ではワクチン接種について、どのように対応されていますか？

市長

令和2年2月に「新型コロナウイルスワクチン接種対策チーム」を結成し、市内医療機関との連携や市民のみなさんへの情報発信などに取り組んでいます。基礎疾患のある人への対応に配慮しつつワクチン接種を進め、現在の接種率は県内10市の中でトップです。オミクロン株BA・5対応ワクチンについては、到着日の午前に納品され午後にはワクチン接種センターで接種を行い、県内で最初に接種を開始しています。

忽那

迅速な対応で素晴らしいですね！

市長

できるだけ早く正確な情報を収集し、分かりやすく市民のみなさんにお伝えしようとチーム一丸となって努めた結果です。また、過去に特定健康診査実施率と保健指導実施率で全国2位になったこともあり、市民のみなさんの